

序

平成21年度における当センターの事業計画については、関係機関の御支援・御協力をいただきながら、計画した事業を円滑に実施することができました。その概要について、列記いたします。

はじめに、調査事業においては、9遺跡の発掘調査と報告書作成のための13遺跡の整理作業を実施いたしました。発掘調査の内訳は、県土木事業に係る調査が4件、国土交通省事業に係る調査が4件、村山市事業に係る調査が1件となっており、その外10遺跡の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少は引き続き見られるものの、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業が主体となっており、高速交通網の整備率が低い本県にとっては、その傾向はしばらく続くものと考えております。公共事業の円滑な進捗を図るためにも、今後予想される高速道路の整備状況や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。また、私どもの重要な施策である埋蔵文化財保護の重要性の周知や、古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するとともに、引き続き県民の皆さんの目線に留意しながら、責任ある発掘調査を基礎とした調査研究を推進してまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、センターホームページでの情報発信や現地における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さんにお知らせしてまいりました。

特に今年度は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館・山形県立博物館・鶴岡市立図書館との共同展示や、山形空港ビル、庄内空港ビルでの「外部展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業への理解や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。

また、昨年度から開催している「山形県埋蔵文化財センター参観デー 埋文まつり2009」では、今年度発掘した調査成果の発表や、企画展示、センターの業務内容の紹介、アンギン編み、勾玉作り、整理作業などの考古学体験を実施し、昨年度を上回る来場者がありました。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は42校で実施したほか、職員を派遣しての講演や調査研究発表等を実施してまいりました。今後も次世代を担う子供達を中心に、地域の伝統文化の大切さや、誇りと自信の持てる地域づくりの一環としての事業の展開など、さまざまな機会を活用して、研究・普及活動を行い、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていくため、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成22年3月31日

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 山口 常 夫



目次

I. 管理運営概要

1. 沿革	1
2. 組織	
(1) 役員及び評議員	1
(2) 職制及び人員	2
(3) 組織	2
(4) 職員	3
3. 施設	4

II. 事業概要

1. 調査業務	5
(1) 調査遺跡一覧	6
(2) 調査遺跡の概要	
山形城三の丸跡（第7次）	8
高瀬山遺跡（HO）3期	12
クダノ遺跡	16
鎌倉上遺跡	18
馳上遺跡	22
馳上遺跡（西谷地地区）	26
山形城三の丸跡（第6次）	28
玉作2遺跡	32
南口A遺跡	34
作野遺跡	36
2. 普及啓発研究等業務	
(1) 研修等	
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	40
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣	40
(2) 情報処理	
①収蔵図書データベース	40
(3) 普及啓発	
①ホームページ	41
②山形県埋蔵文化財センター参観デー やまがた埋文祭り2009	41
③外部展示	42
④学校への協力	43
⑤来所者	45
⑥職員派遣等	47
⑦調査説明会	47
⑧資料貸出	48
⑨資料掲載許可	48
⑩出版物	49

(4) 比較検討

山形盆地における古墳時代前期土師器甕の計測

—容量と形態の特徴について—

渡部 裕司…………… 50

古代の平面正方形区画施設の内部構造

植松 暁彦…………… 58

山形県における江戸時代後期の陶磁器の流通

—米沢市堤屋敷遺跡出土遺物を中心として—

菅原 哲文…………… 66